



声の広報おおづのオープニングを奏でるオルゴール。地震で棚から落ちてしまい外箱は壊れてしまったが今も活躍をしている。

大津のことがもっと好きになる情報誌

# 広報 おおづ

9  
SEPTEMBER 2017



広報おおづ 2017 9

発行・編集 大津市 総務課  
〒869-1292 熊本県勢地部大津大字大津 1233 番地  
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

2100 印刷 印刷株式会社  
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

## 今月の表紙

滋賀県大津市立志賀中と大津中、大津北中の生徒の計15人が8月10日に交流会を行いました。班ごとに分かれ、3つの防災議題について話し合いました。中学生らしい真剣な意見が飛び交いました(記事は2~3ページ)。

## 今月のみどころ

### 台風に備えていますか？

これから台風の季節に入ります。身の回りをもう一度確認しませんか？防災のために滋賀県大津市との相互応援協定を結んだ内容も合わせてご紹介します

## 「自分の声が出なくなるまで 続けていきたい」

音声訳ボランティアグループ山びこ

代表 さかもと  
坂本むつみさん (引水)

オルゴールの「イエスタデイ」の清らかな音色で始まる「声の広報おおづ」。声を吹き込んでいた坂本むつみさんをクローズアップする。

勤めていた会社を退職したあと、「何かしたい」と、孫が小学生になったときに始めた本の読み聞かせボランティア。

参加した後に、孫の友だちや読み聞かせをしたクラスの子どもたちから、町を歩いていると声をかけられるようになった。

「こんなに喜んでもらえるなんて」というのが正直な感想だったが、自分の中で何かが変わってきたのを感じていた。

そんなときに見つけたのが「声の広報」の講習会。読み聞かせで勉強してきた技術が生かせるかもしれないと迷わず、講習を受け「困っている人の力になれるなら」と音声訳ボランティアグループ山びこに参加するようになった。

活動は、毎月下旬にメンバーが集まり、広報の原稿を受け取って担当の割り振りをして2日間かけてマスターテープに録音し、それをテープヘッドビンダリングして社会福祉協議会の訪問事業のときに配ってました。

6年目になる今は代表として活動を続けている。ボランティアの人数は入った当初の11人から今は4人。活動できる人は減っている。小売店の慈善活動で集まった資金を元に買った120分セットテープが手に入りにくくなり苦労している。

しかし、続けたい思いはなくなりません。「利用者の皆さんに私たちは直接お会いすることはないのですが、人伝えにでも感謝の言葉を聞くとや活動の励みになります」と笑顔がこぼれる。

「地震の時、私たちの活動を心待ちにしてくれている人がいることが改めてわかりました。自分の声が出なくなるまで無理をせずに続けていきたい」と話す坂本さんの声から穏やかながらも強さが垣間見えた。

UD FONT  
易やしく読みまちがえにくい  
コンピューターフォント  
を採用しています。

## からいもくん便り

大津町総合情報メール  
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。



登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

朝倉市の被災宅土砂搬出のボランティアに参加しました。ふと見た壁に堆積した土砂の跡を見つけて愕然。2歳を超えていました▼まだまだ道半ばと話す住民に「一緒に頑張りましょうね」と声をかけるので精一杯でした▼上の記事の坂本さんの取材は自分が恥ずかしくなりました▼役場だけで作るのが広報ではないと改めて気づきました▼声の広報は町ホームページから聴くことができます。家事をしながら聴けたりと便利です。一度聴いてみて下さい(MP3/VIDEO)

## こゝろの声